

注意！あなたはアーチェリーの安全管理に責任があります

以下の安全管理情報を読んでください。これらの注意事項を無視すると、あなたや周囲の人にけがを負わせてしまう可能性があります。

1. 絶対に「空うち」しないでください

空うちは矢をつがえずに弦をドローイングし、リリースすることです。エネルギーを吸収してくれる矢をつがえずに弓をうつと、弓に激しいダメージを与えるだけでなく、シューターや周囲の人にも被害が及ぶ可能性があります。どのようなポジションからでも、弓をゆっくり、慎重に戻してください。サイズや強さがあなたに合わない弓を引かないでください。空うちによる弓のダメージは保証の対象外となります。

2. ミニマム・アローウェイト

ピークウェイトの1ポンドあたり、5グレイン以下の軽い矢はうたないでください。たとえば、あなたのピークウェイトが70ポンドの場合、350グレインよりも軽い矢はうたないで下さい。ピークウェイト1ポンドに対して5グレイン以下の矢をうつことは、弓に激しいダメージを与えるだけでなく、シューターや周囲の人にも被害が及ぶ可能性があります。軽すぎる矢を使ったことによる故障は、保証の対象外となります。

3. 弓を高温多湿の場所に放置しないで下さい

快晴の日の車内など、高温の場所に弓を放置しておくとう器具の故障を招きます。暑く乾燥した屋根裏や、湿度の高い地下室などに長期間保管しておくのも痛みの原因になります。弓を使わないときはちゃんとした場所に保管してください。極端な状況下に放置していた場合の故障は、保証の対象外となります。

4. 弓の毎回の使用の時に注意深く確認してください

シューティングの前にボウストリングやリム、カムやハンドルなどの状態をよく確認しておいてください。擦り切れた弦は交換する必要があります。傷んだハンドルやリム、カムなどは近くのプロショップで検査・交換をしてもらってください。

5. バックストップの確認

バックストップが細い矢を通さず、矢が完全に貫通してしまわないぐらい厚いものであることを確認してください。人や家畜、建物や道路を避けた方向に向いていることも確認してください。

6. ターゲットの確認

ターゲットの後ろや近くに、人や家畜、建物、道路や他のものがないことを確認してください。暗い時もターゲットが何であるか分かるようにしてください。

7. すべての矢を確認してください

シューティングの前に矢が曲がっていないかを確認してください。割れたり、へこんだりしている矢は除外してください。傷んだり、外れそうになっているフレッチングやノックは交換してください。傷んだ矢は絶対にうたないように！

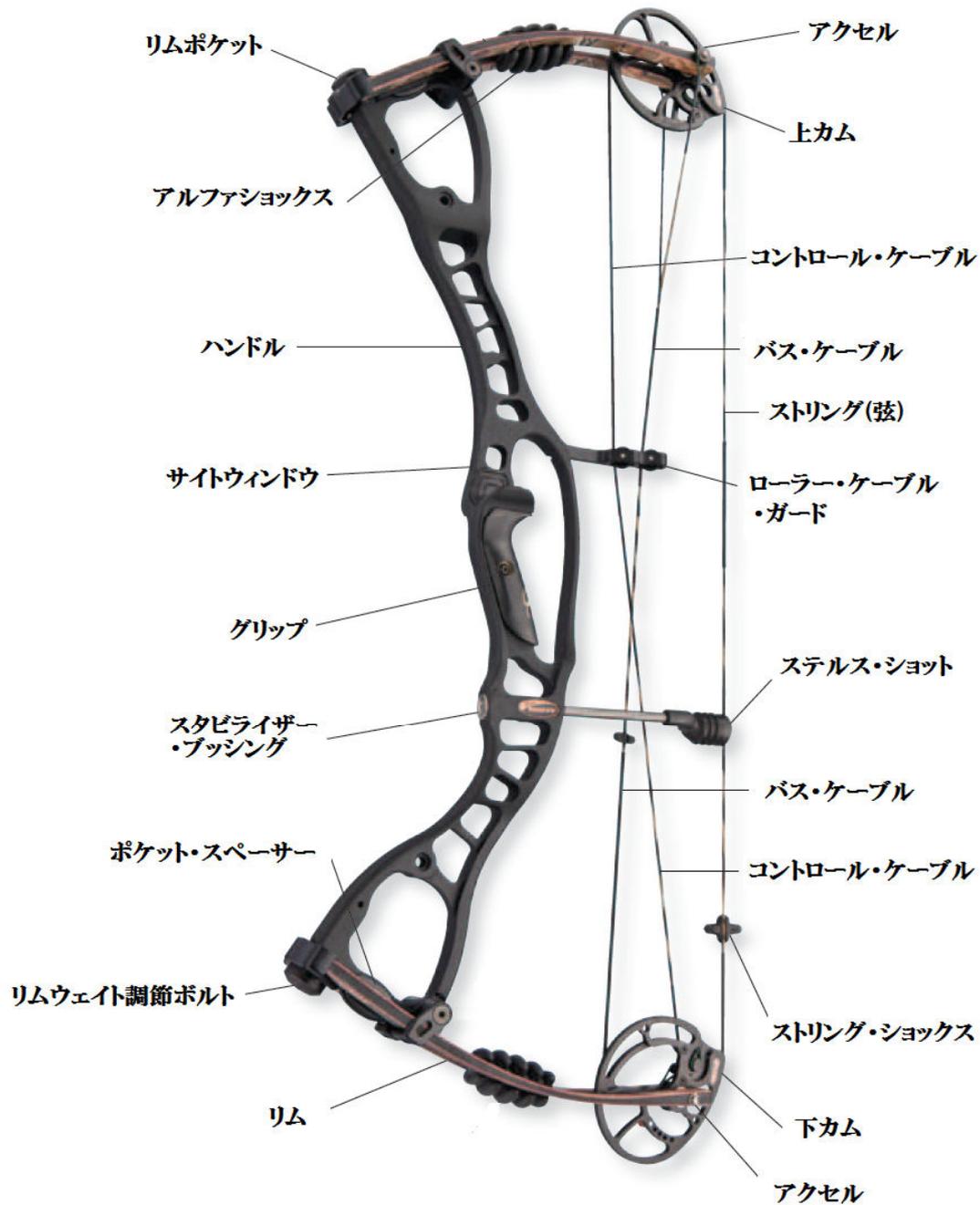
8. いつでも安全に

真上に向かってうたないで下さい。シューティングしたり、チューニングをするときは安全ゴーグルをつけてください。ブロードヘッドを使うときは弦やケーブル周りに注意してください。弦やケーブルを切ってしまうと、弓とあなた自身や他の人に大きなダメージを与えてしまいます。最大ドロレングスを超えてドロイングしないでください。他の人に向かって弓を向けたりドロイングしたりしないでください。子供は必ず大人と共に使用して下さい。

9. すべての注意書きを読み、留意してください

HOYT は安全でない使用法や間違った矢、弓の組み合わせによるけがについて責任を負うことができません。HOYT は改造された弓を使用することによって負ったけがについても責任を負うことはできません。

HOYT コンパウンドボウ 取扱説明書



コンパウンドボウのセットアップ、チューニング、メンテナンス

アクセサリーの選択

HOYT と FUSE は幅広いアーチェリー用の商品やアクセサリーを製造しています。正規の HOYT/FUSE 取扱店が、あなたのシューティングスタイルに合った道具の選択やチューニングをお助けします。弓のためではないものを弓に取り付けようとしないでください。弓の改造は保証を無効にしてしまい、長期的に見れば、道具の故障やけがにつながります。

ドローレングス

ドローレングスは様々な要素によって定義されます。HOYT の取扱店では、スタッフがあなたの体やシューティングスタイルに合わせたチューニングをするように訓練されています。HOYT はシューターに合わせて 3 種類の基本的なカムを取り揃えています。Rotating inner-cam module カムと Exchangeable module カムと Draw length specific カムの三つです。ドローレングスは、ATA (Archery Trade Association) 規格に合わせて、インチで測ります。ノックの内溝からレストマウンティングホールまでの距離 + 1.3/4 インチを測ります。ドローレングスを調節する方法は後述します。

Rotating inner-cam module CAM: GTX, Cam&1/2 plus, M4, Versa FLEX, AccuWheel

Exchangeable module CAM: FUEL, GTR

Draw length specific CAM: Spiral X

ドローウェイト

ウェイト調整は、リムウェイト調節ボルトを時計回りに回せばポンドが上がり、反時計回りに回せばポンドが下がるという風に簡単に行うことができます。ティラーが同じになるように、上と下のリムボルトは同じ位置にしてください。

HOYT の弓はピークウェイトよりも 10 ポンド分下げることが可能です。たとえば、60 ポンドの弓は、最低で 50 ポンドまで下げることができます。**リムボルトは 8 回転以上緩めないようにしてください。**

注意：保管のためにポンドを下げる必要はありません。

センターショット調整

センターショットは弦のラインと矢のアラインメントを合わせることを表します。レストマウンティングホールから、アローシャフトの中心までの距離はおよそ13/16インチにする必要があります。これはアローレストを左右に動かすことで調整できます。これはまだ最初の段階のチューニングなので、さらに詳細な調整が必要になってくるかもしれません。

ノッキングポイントの位置

あなたの弓のセットアップとシューティングスタイル（矢の種類、フィンガー/リリーサーか、アローレストの種類など）がノッキングポイントの位置を決定します。最初は、矢と弦が直角を作るようにノッキングポイントを作ります。これはまだ最初の段階です。さらに精密な調節がノッキングポイントには必要になってきます。HOYT は真鍮や金属ノックをノッキングポイントに使うことを推奨していません。

ファインチューニング

HOYT の正規代理店はあなたに弓を精密にチューニングするにはとても役立ちます。全体のセットアップに関する効果的な方法があります。正規代理店では、最初から最後まで、すべてのチューニングを行うことができます。詳しいチューニングの情報については、親会社のイーストン社のホームページを参照してください。

弓のメンテナンス

あなたの弓は機械なので摩耗しますし、そのために定期的に検査をし、チューニングをする必要があります。HOYT は、最低でも年に一度、弓をプロショップに持って行って、プロフェッショナルにメンテナンスを行ってもらうことを推奨します。

弦とケーブル

弓の弦とケーブルには定期的に、ボウストリングワックスをつけるようにしてください。2週間に一回くらいの頻度で行うのがいいでしょう。HOYT のプロショップで買える高品質のボウストリングワックスを使うことをおすすめします。これにより、弦とケーブルをいい状態に保つことができます。いい結果を出す

ためにも、弦やケーブルに傷みがはっきり出ていたり、継続的に 2 年以上使った場合は、交換するようにしてください。FUSE の弦とケーブルがあなたの弓には使われています。すべての HOYT 製のモデルには FUSE の Custom String System が装備されています。交換の際は、かならず FUSE ブランドの弦とケーブルに交換してください。低い品質の弦やケーブルを使うと、弓のパフォーマンスを変えてしまったり、保証の対象外の故障を招いたりしてしまう可能性があります。絶対に弦とケーブルを高温多湿の場所に放置しないでください。

弦とその周辺部品（ピープサイト、ノッキングポイント、D ループ、ストリングサイレンサー等）がまだしっかりと設置されていない弓は引かないで下さい。正しくないセッティングしてしまうと、安全なシューティングができなくなってしまいます。HOYT は真鍮や金属ノックをノッキングポイントに使うことを推奨していません。

ストリングショックスとアルファショックス

工場で調整されたストリングショックスとアルファショックスは振動と音を吸収してくれます。定期的に検査し、摩耗がはっきりとして来たら交換してください。これらの製品は消耗品の為、メーカー保証の対象外です。

ステルスショット

ステルスショットは高性能の振動吸収システムです。最高のパフォーマンスのために、ステルスショットのダンパー部分が、ブレースハイトの位置で弦にギリギリ触れる位置に取り付けてください。注意：ブレースハイトで過剰な圧力をかけないようにしてください。ダンパーのねじを緩めることで、弦が中心にくるように調節することができます。



塗装と仕上げ

あなたの弓の塗装と仕上げはメンテナンスを行う必要性がありません。泥やほこりなどは濡れた布で拭き取ってください。湿った状態で使った後は、水によるダメージを防ぐために乾いたタオルなどで拭いてください（熱源を使って弓を乾かさないように！）。ターゲットモデルの光沢仕上げのものは、高品質の自動車用ワックスを使用できます。化学物質や溶液、その他の弓の塗装を害するものは使わないでください。化学物質や溶液、それ以外で、弓の塗装・仕上げ

にダメージがあっても、保証の対象外です。塗装で保証されるのは製造段階で欠陥があったときのみです。

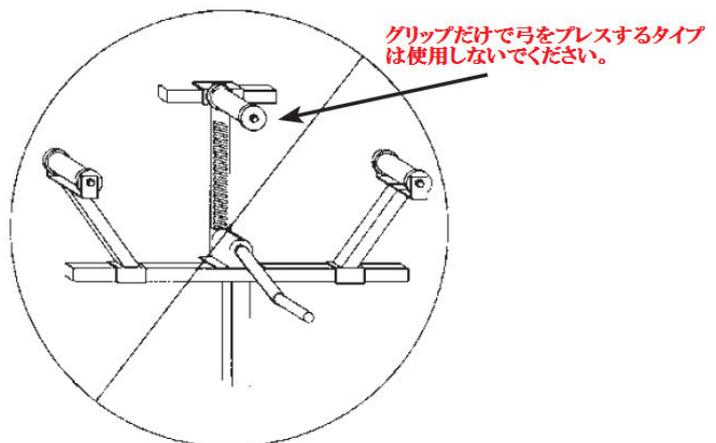
カムの注油

カム&1/2 パフォーマンスシステムを装備した弓は、注油を必要としないシールドボールベアリングを採用しています。AccuWheel などの従来のベアリングやブッシングには、カムの中の軸に定期的に注油することが必要です (1,500~2,000 射ごと)。

土やほこりや湿気のあるハンティングコンディションの中では、毎日注油することが必要です。余分な潤滑油はほこりや汚れを集めてしまい、塗装面を傷めてしまうので、拭き取るようにしてください。HOYT のプロショップで買えるシリコンやテフロンをベースとした潤滑油や、グリスを使用することをおすすめします。WD-40 や EZ-#7、Fast Break などの「防錆浸透オイル」は使ってはいけません。

ボウプレスの使用

知識のある技術者がいない限り、絶対に弓をボウプレスにはかけないでください。ボウプレスを必要とする調節は HOYT プロショップで行うことをおすすめします。ボウプレスの間違った使用で起こってしまったダメージは、保証されません。



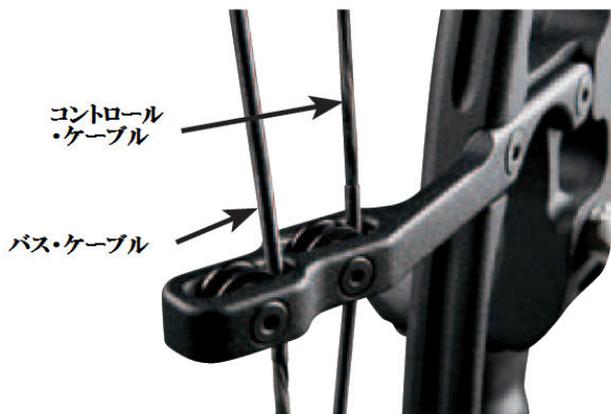
弓の調節を行う場合は、必ずリムだけを押しダブルプルボウプレスを使ってください。シングルボウプレスを使ってはいけません。

弓をボウプレスにかける前に、(もし搭載されているのなら) ウェイトロックボルトを緩め、ウェイトアジャストメントボルトを締めこんだ状態から 5~7 回転緩めてください。弓をボウプレスにかける時は、**絶対にハンドルやカムに圧力をかけないようにしてください!**

インライン・ローラー・ケーブルガード

インライン・ローラー・ケーブルガードのある弓は、工場ですでにセッティングされており、それ以上のセッティングは必要ありません。ローラーホイールは注油を必要としないシールドベアリングを採用しています。もしホイールにワックスや汚れが付いたら、布で軽く拭き取ってください。

注意：ケーブルを変えたり、交換する際にはケーブルローラーは取り外さなければなりません。ローラーを再設置する場合は、過剰に締めすぎないように！バスケーブルを設置するときは、コントロールケーブルが「CC」と書かれたローラートラックに沿っており、バスケーブルが「BC」と書かれたローラートラックに沿っているようにします。正しくセッティングできた場合は、ケーブルが互いに接触しません。



ローラーの向きに注意して下さい。

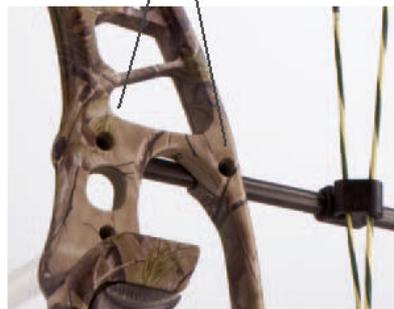
写真(下)の向きでローラーを取り付けてはいけません



ケーブルガードの設置

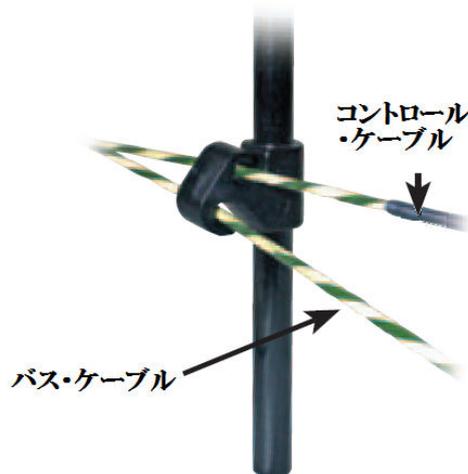
いくつかのHOYTの弓はケーブルガードバーが標準装備されています。ケーブルガードバーを設置するためには、バーがハンドルの穴に完全に入るように、ハンドルの二つのマウンティングホールに取り付けます。バーが入った後は、付属するセットスクリューで固定してください。

セットスクリューで固定する



ケーブルスライドの設置

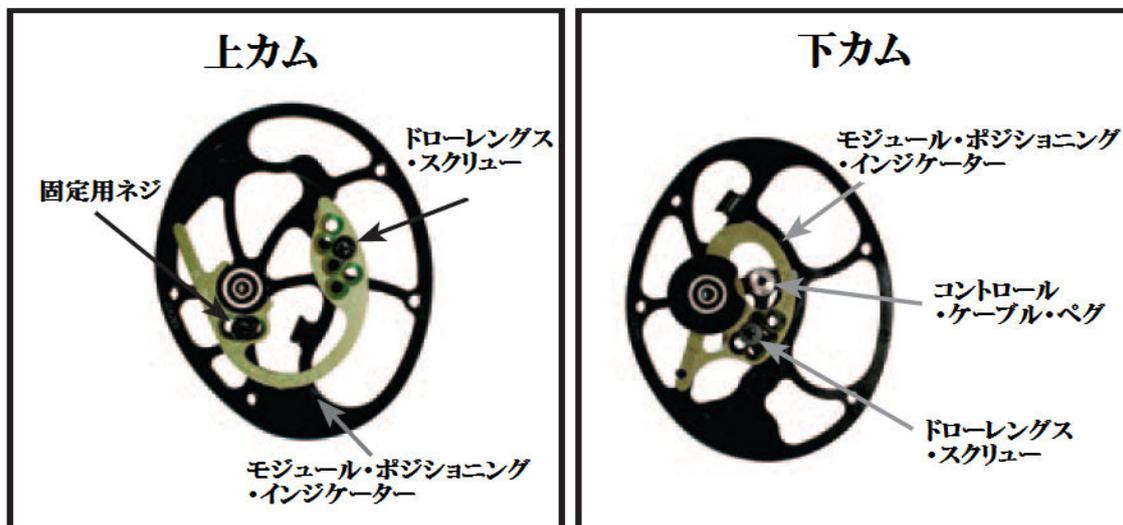
ケーブルが互いに擦れるのを防ぐために、HOYT は特別にデザインされた、オフセットケーブルスロットのあるケーブルスライドを使っています。正しく HOYT の弓に設置するためには、まずガイドをケーブルガードバーに取り付けます。次に、コントロールケーブルを前の短いスロットに通します。最後にバスケーブルを後ろの長いスロットに通します。



注意:ケーブルガードとスライドを正しくセッティングする前に弓を引かないでください。

ドローレングス調整

Rotating inner-cam モジュールを装備している HOYT の弓のドローレングスを調節するためには、以下の説明に従ってください。



上カム：Rotating inner-cam モジュールを装備している HOYT の弓のドローレングスを調節するためには、標準のレンチを使いドローレングス・スクリューを締めたり、緩めたりしてください。インナーカムモジュールを (+) の方向に回転させると、ドローレングスが長くなります。インナーカムモジュールを (-) の方向に回転させると、ドローレングスが短くなります。それぞれの文字は、前の文字と比べて 1/2 インチの差があります。インナーカムモジュールが正しい

位置にきたら、ドローレングス・スクリューを再び取り付け、最後に固定用ネジを締めてください。

注意：AccuWheel と VersaFLEX カムは、上カムと同じことを下カムで行ってください。

下カム：ドローレングス・スクリューを取り外し、インナーカムモジュールを上カムのインナーカムモジュールと同じ文字になるように調整します。このようにしないと弓が正しく機能しません。インナーカムモジュールに青のロックタイト (Blue Lock-Tite) の使用をお勧めします。

注意：いくつかのモデルでねじを外す時は、ケーブルやリムが邪魔にならないように、ボウプレスを使ってカムを回転させる必要があります。ボウプレスを使用した作業はプロショップで行ってください。

注意：絶対に、緩んだり、違うモデルのインナーカムモジュールを使って弓を引かないで下さい。深刻なけがや弓のダメージにつながります。

注意：ボウプレスを使用せずにステンレスのコントロール・ケーブル・ペグを外すのは絶対にやめて下さい。

以下の説明に従って、Exchangeable モジュールを装備している HOYT の弓のドローレングスを調整してください。

この調整ではボウプレスを使う必要がありません。欲しいドローレングスを決定できたら、単純に 7/64 インチレンチを使ってモジュール・スクリューを取り外してください。モジュールを固定するためのねじは上カムに三つ、下カムに二つあります。ねじを取り外したら、モジュールをカムから外してください。そして、欲しいドローレングスに対応したモジュールに交換してください（モジュールスクリューを締めすぎないでください）。モジュールスクリューを青のネジロック (Blue Lock-Tite) を使用して固定することをおすすめします。ドローモジュールが設置されたら、下カムにあるドローストップを調節します。ドローストップを 1/16 インチレンチで外し、カムモジュールに書いてある文字に対応するようにねじ穴に再設定します。たとえば、XR2A カムモジュールはドローストップペグの A の位置を使います。

注意：間違ったカムモジュールを使って弓を引かないで下さい。深刻なけがや弓のダメージにつながります。

注意：ドローレングスモジュールは、HOYT 代理店で様々なサイズがお求めになれます。

Draw length-specific カム (Spiral X など) のドローレングスを変える場合は、HOYT 代理店で詳しい説明を受けてください。ドローレングスを変えるためには、違うサイズのカムに変える必要があります。

注意：Draw length-specific カムを交換した場合、弦、コントロールケーブル、バスケーブルも交換する必要がある場合があります。

弓の設定を工場の状態に戻す

工場から出荷した初期状態の弓のセッティング (カムタイミング、ドローレングス、ドローウェイト、ブレースハイト、アクセル間など) に戻すためには、まず弦とケーブルの長さを測り、そのあとに元の長さに戻るように、弦のねじれを増したり、減らしたりしてください。弦とケーブルの長さが戻れば、あとはコントロールケーブルかバスケーブルのどちらかをねじることで、上下のドローストップを同期させることができます。

カムタイミング

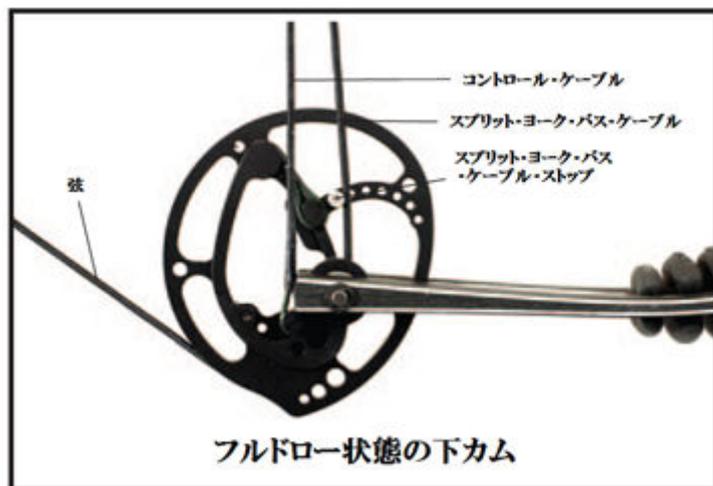
HOYT の CAM&1/2 パフォーマンスシステムはあまりメンテナンスを必要としません。弦とコントロールケーブル、バスケーブルが正しい長さの場合、カムタイミングはほとんどメンテナンスを必要としません。

ケーブルストップによってケーブルが止められても、上カムと下カムの両方が同時に動くように、コントロールケーブルがコントロールしています。カムがシンクロする地点は幅広くあります。HOYT のエンジニアやプロシューターは、カムタイミングの差は、矢のグルーピングにあまり影響を与えないとしています。もし、弦やケーブルの長さのせいでカムタイミングやポジショニングが合っていないと感じたら、下記の方法を参照してください。

まずは、弦の長さが推奨値に合うように、ねじりを加えたり、減らしたりしてください。次に、調節した弦を取り付けます。



弓を引いたときに、上カムのコントロールケーブルストップが、下カムのヨークドバスケーブルストップよりも先に触れる場合は、コントロールケーブルをねじって短くしてください。下カムのヨークドバスケーブルストップが、上カムのコントロールケーブルストップよりも先に触れる場合は、ヨークドバスケーブルをねじって短くしてください。



注意：HOYT は弦の長さを ATA 規格に沿って測っています。

レットオフ調整

GTX カム、CAM&1/2 Plus、M4 カムは 65%と 75%モジュールがあります。レットオフの調整はプロショップで行ってください。これらカムでレットオフを調整するときは、ボウプレスを使ってカムと弦を緩める必要があります。

上カム：上のカムモジュールを外し、必要なレットオフに交換します。

下カム：弦とケーブルを取り外します。次に、コントロールケーブルペグとモジュールスクリューを外し、モジュールを取り外します。必要なレットオフに交換し、コントロールケーブルペグとモジュールスクリューを再びつけます。モジュール番号とカム番号が合うようにしてください。たとえば、3.0 CAM&1/2 Plus は、3 番モジュールです。モジュールが互いに同じ文字になるように注意してください。たとえば、トップモジュールが「E」のポジションにある場合は、ボトムモジュールも「E」の位置になければなりません。カムモジュールが間違

っていたり、ない状態で弓を引かないで下さい。深刻なけがや弓のダメージにつながります。

Spiral X カムのレットオフはレンチを使うことにより調節できます。Spiral X カムの ATA レットオフの幅は 65% から 55% です。下の Spiral X カムは 1 から 4 までのドローストップホールがあります。最も低いレットオフ (55%) は、ドローストップペグを #4 ホールに合わせます。ドローストップペグを #1 ホールに合わせると最も高いレットオフになります (65%)。いくつかの Spiral X カムは二つか三つしかホールがありません。

注意：ドローストップの位置を変えると、一つにつきおよそ 1/8 インチ、ドロールングスが変わります。ドロールングスは、低いレットオフポジションに変えると短くなり、高いポジションに変えると長くなります。

シリアルナンバー

HOYT のコンパウンドボウには 6~7 桁のシリアルナンバーが 4 か所のうちの一つに刻まれています。上リムの間か、その下のポケット、あるいはアローレストのマウントホールです。もし、レストをすでにハンドルにつけてしまった場合は、シリアルナンバーを見るためには取り外さなければならないかもしれません。

HOYT のカーボンハンドルの場合は、シリアルナンバーはサイトマウントホールの中にあります。Rampage シリーズでは、グリップの下にあります。見つけるためには、グリップの固定ねじを外し、グリップを取り除く必要があります。

